

みんなの環境 私たちの実践

本実践事例集は、第15回群馬県環境教育賞において最優秀賞に選ばれた学校の実践や審査総評等を掲載したものです。自校の環境教育推進の参考としてください。



I 実践事例

(小学校の部 最優秀賞)

伊勢崎市立境剛志小学校

「地球の自然から学ぶ環境学習」

(中学校の部 最優秀賞)

藤岡市立北中学校

「北中紙リサイクルプロジェクト」

(高等学校・特別支援学校の部 最優秀賞)

群馬県富岡実業高等学校

「世界遺産への道 ～地域に広がる活性化～」

II 審査総評の概要

III 第15回群馬県環境教育賞受賞校一覧

IV 第15回群馬県環境教育賞募集要項

I 実践事例

小学校の部 最優秀賞

伊勢崎市立境剛志小学校

1 活動名 「地域の自然から学ぶ環境学習」

2 環境教育としてのねらい

現在、環境問題の解決とよりよい環境の創造を目指した活動の重要性と必要性が叫ばれています。学校における「環境教育」は、これからの社会を担う子どもたちへの教育内容として最重要課題の一つとなっています。

本校では、主に総合的な学習の時間において、地域の豊かな自然環境を活用した体験学習に取り組んでいます。こうした総合学習における取り組みと他の教科・領域とを有機的に結びつけた横断的な教育活動を通して、子どもたちの環境に対する総合的な認識を形成するとともに、発達段階に応じてよりよい環境の創造のための態度や行動を身に付けさせていきたいと考えています。

3 学校及び地域の環境の状況

本校周辺には畑が広がっていて、少し前までは養蚕の盛んな純農村地帯でした。ここ十年ほどの間に大きな住宅団地ができて都市化が進んでいるのですが、まだまだ周辺には豊かな自然が残されています。学校のすぐ南側には利根川水系の広瀬川がゆったりと流れ、その周囲は人の手が加えられていない豊かな緑に覆われています。学校の西側には「おんたけ山」と呼び親しんでいる「御嶽山自然の森公園」があります。おんたけ山は、行政や地域の方々の手で自然に近い環境保全がなされている、子どもたちの大好きなお山です。

このように本地域は、自然に親しみながら環境について学ぶのに最適の地と言えます。この地の利を生かし、本校の子どもたちは低学年のときから「おんたけ山」での野外授業を行い、学年を追って段階的に地域と自然についての学びを深めながら環境保全の活動に取り組んでいます。

4 活動の内容

低学年の段階では、「**環境の中で**」を視点に、身近な自然の中で五感を通して環境を実感し豊かな感受性を養うことをねらいとした学習活動に取り組みます。

初めに、1年生の生活科でおんたけ山と広瀬川沿いを中心に「季節さがし」の活動を行います。これは、林の中や川の周辺を探検しながら草花や昆虫、生き物、樹木、木の実などに興味を持つようにしたり、自然が季節によって変化していることに気づかせたりする学習活動です。続いて「よもぎ団子作り」や「虫集め」「生き物ランドを教室に作ろう」「木の実でリース作り」など、身の回りの自然を利用したり身近にあるものを使ったりした遊びを工夫します。

2年生の生活科では、自然を五感で感じる活動の「アウトドアゲーム」や「秘密基地作り」「ターザン」「迷路作り」「落とし穴作り」など、自然と一体となって遊ぶ活動を通して、体全体で自然を感じ取れるようにします。そうした活動の一つの「おんたけ山にあそびの国を作ろう」の單元では、1年生や保護者を自分たちの作った遊びの国に招待しました。意気揚々と楽しく遊ぶ子どもたちは、豊かな自然の中で季節の変化に目を向け、そこに住む様々な動植物の生活に関心を持つようになります。

中学年になると、「**環境について**」を視点に、自然に直接触れながらの自然探求活動を



を通して、自然の豊かさや大切さに気付かせ、地域の環境を守るためにできることを考える学習に取り組みます。

3年生では、理科と総合的な学習の時間を関連させた「おんたけ山探検隊」で、おんたけ山の秘密を探る学習に取り組みます。この学習のスタートは、環境に敏感なホタルの幼虫の放流体験です。この体験は、地域のスクールサポートティーチャー（「御嶽山ホタルと川辺の会」の方々）が一年がかりで育てたホタルの幼虫を提供していただき、ホタルの生態や性質を教え、清流への放流を支援していただきます。その後、フォレストリースクール（県の森林環境教育事業）の講師の方々をお招きし、森の生き物の観察を通しておんたけ山の生き物の生態や特徴などについて学びます。この二つの共通体験をもとに、子どもたちは自らの課題を設定し、何度もおんたけ山に足を運びながら課題追求する中で、季節の移り変わりとともにおんたけ山の新たな魅力を見いだしていきます。そのそれぞれが調べた学習内容の発表会や地域のスクールサポートティーチャーからのアドバイス（御嶽山の自然は多くの人々の手によって維持されていることなど）をもとに、環境保全のために「自分たちにできることはないか」と考え、みんなで考えたことを実行します。例えば、おんたけ山に花の種を植えたり、自分たちで描いた自然保護を訴えるポスターを木々に掛けたり、ゴミ拾いをしたり、翌年のホタルの繁殖に備えて餌になるカワニナを集めてホタルの生息する川に放流したりしました。

4年生の総合的な学習の時間では、「カイコの不思議探検隊」をテーマとした課題解決に取り組みますが、ここでは本地域の主要産業だったカイコの飼育を通して、地域の生活や環境の変化に気づき、よりよい郷土を作っていくために自分たちにできることを考え実践していこうとする意識を高めるようにしています。

高学年になると、これまでの地域の自然の中での環境についての学習を踏まえ、「**環境のために**」の視点から、環境問題の解決やよりよい環境を創造するための態度を身に付けることを意図した実践活動に取り組みます。

5年生の「広瀬川から環境を考えよう」では、本校校歌にも出てくる広瀬川をカヌーで下る体験を通して地域の川に親しみますが、この時、現在の広瀬川はゴミの散乱や水質の劣化などで遊び場所としては身近とは言えなくなっている現状を知ることになります。そこから環境を調べることに関心を持ち、広瀬川の水質や周辺環境調査活動などを行います。そして環境問題が自分たちの生活と深い関わりがあることに気づき、身近な環境を改善す

るための方法について考えます。これが川のゴミ拾いをしたり、地域に発信（学校公開日におけるポスターセッション等）したりする活動に繋がります。

6年生を中心とした「緑の少年団」の活動では、花いっぱい運動の一環としてパンジーやサルビア、アサガオ、ヒマワリを花壇に植えて育てます。花をつけたパンジーはプランターと植木鉢に移植し、公民館や福祉センター、消防署、駐在所、浄水場等の



公共施設に贈呈しています。高学年になると、このような学校の花壇整備や地域のために花を育てる緑化活動に取り組むとともに、ホタル祭り後のおんたけ山のゴミ拾いやカヌー教室後の広瀬川のゴミ拾いなどの活動により、地域の美化活動に貢献しています。さらには、委員会活動によるアルミ缶回収、地域と一体となって取り組む地域美化活動・古紙回収活動にも積極的に取り組みます。こうして高学年になるにつれて視野が広がり、自主的で実践的な行動化が図られ、「環境のために」を意識したよりよい環境の創造と保全のための地域の方々との交流活動に意欲的に取り組む姿を見せてくれるようになります。

5 成果と今後の課題

1) 成果

野山を駆けめぐるといった体験の乏しい現代っ子は、初めの頃、おんたけ山の森の中に入るのを「怖い」と感じるようですが、季節の変化や生き物の変化などに触れるうち、次第に自然の中で遊ぶことを心地よいと感じるようになります。この低学年の自然の中で豊かな感受性を養う学習活動と中学年の地域の自然についての課題解決学習により、自然の偉大さに気づき自然を大切にしていこうとする気持ちが育っていきます。そして、高学年では、広瀬川の現状と問題点を理解し、環境問題を身近な問題として捉えられるようになり、自分たちにできる環境保全に向けた具体的な活動として、地域美化活動やアルミ缶回収などに主体的で積極的な取組姿勢を見せてくれます。

2) 課題

これまで本校では、身近な自然を活用した「自然の森公園・広瀬川」を軸とした学習内容の体系化と環境認識育成の総合化、そして各教科・領域や教育活動との関連化に取り組みました。この一方で、身近な暮らしの中の「資源・エネルギー」を軸とした視点から学習内容の体系化を図ることも必要であろうと考えます。今後は、この視点をも加味したカリキュラムの改善を検討していく必要があるだろうと考えています。

そして、今後でもできる限り多くの直接的な自然体験活動の機会を提供し、観察や調査、実験、測定、製作等の具体的な学習活動を重視していきたいと考えています。さらには、環境に対する認識や実践活動を広げたり深めたりするために、家庭や地域社会との連携を一層深めていくことを重視した活動を展開していくことが大切であろうと考えています。

1 活動名 「北中紙リサイクルプロジェクト」

2 環境教育としてのねらい

地球温暖化の問題、特に「ツバルの水没危機問題」を通して、「人と環境」の関係について理解し、自分達の考えを持った上で、環境保全・回復活動に直結する紙リサイクル活動に参加させることをねらいとしています。

3 学校・地域の環境の状況

藤岡市は、豊かな自然環境が周囲に残っています。市はこれを活かしたまち作りを進めています。自然環境保全のため、分別収集による資源化、地球温暖化対策等を推進しています。本校は、市街地の北東部に位置し、上毛三山・秩父連山まで展望できる環境良好の地です。本校では、環境教育のために実施してきた空き缶回収が、9年前より、福祉教育のためのアルミ缶回収に様変わりし、新たな環境教育を模索してきました。地球温暖化が深刻になる中、2005年京都議定書が発効になったことを機に、本校では、環境教育として「北中紙リサイクルプロジェクト」を開始しました。

4 活動の内容

「北中紙リサイクルプロジェクト」とは、校内から出る紙ゴミを100%リサイクルし、二酸化炭素の排出削減で地球温暖化防止に貢献するプロジェクトです。

1) 具体的な活動内容

- ① まず、職員だけで紙リサイクル活動の練習を始め、回収システムの点検・調整、回収できない紙の確認等を行いました。次に、生徒がセヴァン・スズキの再現演説を聴き、「自分たちも環境を守るために行動しなくてはいけないという気持ち」を高め、紙リサイクルを生徒に紹介しました。
- ② 紙リサイクル活動では、教室・職員室・トイレ・更衣室等に紙回収箱を設置し、職員・生徒全員で回収しています。リサイクルした紙の整理は、生徒の場合は環境委員会が、職員の場合は有志16名が行っています。
- ③ 2006年度からは、リサイクルで得た市の補助金を緑化に活用すること、生徒ボランティアの活用、牛乳パックの回収、新入生に対する環境教育、環境掲示板の充実、リサイクル運動の輪を広げる活動、小中連携の環境教育を校区内小学校に提案、環境保護活動に特化した「環境委員会」の設置等を新たに盛り込みました。

2) 「北中紙リサイクルプロジェクト」の特筆すべき点

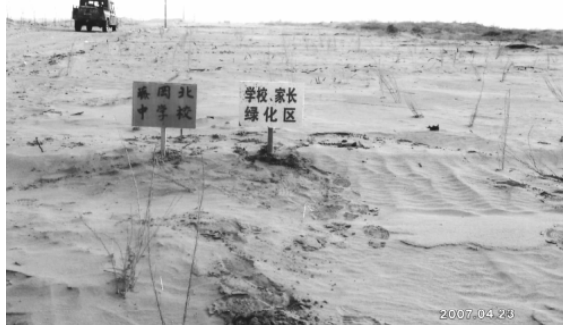
- ① 培養した環境浄化微生物「えひめ-AI2」を污水対策に活用した牛乳パックの回収・洗浄のシステムが定着した点。

- ② 紙の整理に職員・生徒の有志を活用したり、作業を細分化して、リサイクルの負担を少なくしたりするシステムが定着した点。
- ③ リサイクルで得た市の補助金を金沢市のNPO法人「世界の砂漠を緑で包む会」と連携して砂漠緑化に活かし、中国の内モンゴル地区に北中の林を誕生させ、紙回収努力が地球環境保護に役立っていることを実感できる流れを作れた点。



【写真 紙搬出ボランティアの活動】

- ④ 意識の高いボランティア生徒や生徒会を中心に「環境ネットワーク北中」が立ち上がり、リサイクル活動を一般市民まで広げたり、リサイクルできる紙の種類を詳しく調べたりしている点。さらに、環境保護団体と連携して廃油や割り箸のリサイクルシステムの構築を目指そうとする段階まで発展してきている点。



【写真 砂漠に誕生した北中の林】

- ⑤ 校区内の幼小中高等学校及び地域と連携した環境教育にしようと考え、まず、小学校に提案して、2006年9月に採用された点。現在、「群馬県環境学習推進基本指針」（県教育委員会）に基づいた具体的な指導内容を検討中です。
- ⑥ 職員の環境教育の足並みを揃えることを目標に、「北中職員のための環境情報」という通信を提供している点。
- ⑦ 職員有志で紙リサイクルプロジェクト本部を作り、企画・運営を行っている点。
- ⑧ 環境専門の委員会を新設し、紙リサイクルプロジェクト本部の職員を委員会顧問においたことで、環境に関心のある生徒が集まり、リサイクル活動も、消灯活動も活動の指示も比較的スムーズに行えるようになった点。

3) 生徒の関わり

- ① 生徒全員参加しての紙リサイクル活動（教室で紙と牛乳パックを回収）
- ② 生徒会本部としての関わり（回収累計の掲示）・・・週1度更新の啓発活動
- ③ 生徒会環境委員会としての関わり（紙と牛乳パックの片づけ、節電）・・・紙の片づけは毎週金曜日に交替制で実施
- ④ ボランティア活動としての関わり（段ボールの片づけ、紙搬出）・・・段ボールの片づけは、月単位で募集。紙搬出は業者に引き渡す作業で3ヶ月に1度募集
- ⑤ 「環境ネットワーク北中」会員としての関わり（紙リサイクル活動の広報活動）
 ・ ・ 1年生への牛乳パックの開き方技術指導、地域の家庭を訪問し紙リサイクルを呼びかける活動、回収できない紙の情報を業者より収集、紙搬出ボランティアに参加するように呼びかける活動等をすでに実施

5 成果と今後の課題

1) 段階ごとの成果と課題

- ① 第1段階の2005年度は、セヴァン・スズキの再現演説を聴き、「自分たちも環境を守るために行動しなくてはならないという気持ち」が高まり、教師が取り組んでいる紙リサイクルと一緒に始め、そのやり方を覚えました。開始から2ヶ月後も、ティッシュ箱をきちんとつぶしてリサイクルしたり、教室掃除で掃き集めたゴミから紙を抜き取ったりする姿が見られました。

しかし、紙リサイクルを行う理由が浸透しきれなかった点や地球環境への貢献度が見えにくい点があったために、活動意欲が徐々に低下していきました。

- ② 第2段階の2006年度は、金沢市のNPO法人と連携し、「自分たちの紙リサイクル活動は、砂漠緑化を通して、地球温暖化防止に積極的に貢献している」ことがわかるようにしました。この方法で、生徒は意欲的に活動に参加するようになりました。そのため、この年から導入した「回収処理、紙搬出ボランティア活動」には、参加生徒が延べ78名に達しました。また、紙リサイクル普及を目的とした団体「環境ネットワーク北中」を設立したところ、多数の生徒が参加を申し出てきました。

しかし、紙と牛乳パックの処理を担当する生徒会環境美化委員会は、従来から行っている清掃美化活動もあり、負担が重すぎ、消灯活動も徹底できませんでした。さらに、2学期から導入した牛乳パックのリサイクルは、面倒くさい気持ちが出てきてしまい、開き方も徹底できませんでした。

- ③ 第3段階の2007年は、環境専門の委員会を新設しました。その結果、環境に対する関心のある生徒が集まってきたので、回収した紙と牛乳パックの処理だけでなく、消灯活動も順調で、昨年度と比較して、毎月5～6%の節電に成功しています。続いて、「牛乳パックの正しい開き方」学習で、楽しんでリサイクルする姿が見られるようになりました。また、「環境ネットワーク北中」の会員の支えもあり、回収処理・紙搬出ボランティア活動参加生徒は、2学期末までに117名に達しています。

2005年からの紙回収総量は16222kg（2007年12月現在）に達し、CO₂ 14275kgを削減できました。この活動により、324本のパルプ用樹木の伐採を遅らせ、砂漠に3000本の植林もしていただくことができました。さらに、電気使用量は昨年度と比較して、9ヶ月で8160kwhの節電により、CO₂ 8160kgを削減できました。

2) 今後の課題

無理なく行える紙リサイクル活動（環境学習）を市内の幼小中高等学校・各家庭に紹介し、地域総がかりで環境問題に取り組めるようにしていきます。さらに、2013年までに全国に紹介していきます。そのためにはどのような方法が効果的かを早急に検討する必要があります。

現在、「環境ネットワーク北中」の会員と有志が市内高等学校のエコクラブと連

携して、幼稚園での環境教育を準備中です。こうした幼小中高等学校および地域と連携した環境教育にするために、「群馬県環境学習推進基本指針」（県教育委員会）に基づいた具体的な活動内容を検討しています。また、他の会員が河川の浄化システム・食用廃油・割り箸の回収システムを市役所・市内環境保護団体と構築しようとしていますが、その活動時間をどう確保するか、どう連携するかが問題となっています。

さらに、内モンゴルのアラシャン砂漠にできた北中の林の視察や植林活動に、有志を参加させる活動構想を実現可能なプランにしていこうと考えています。

1 活動名 「世界遺産への道 ～地域に広がる活性化～」

2 環境教育としてのねらい

富岡実業高校は「社会に信頼される人間づくり」、「地域に開かれた特色ある学校づくり」を学校目標に、地域に根ざした様々な活動に力を入れています。自分たちが身近な地域での環境美化や交流活動を実施していくことで、環境について自ら考えられる態度・社会性・指導性を身につけさせたいと考えています。

今回の活動は、園芸科学科の生徒2・3年生が課題研究の授業で考え、協力して実施しているものです。大きなテーマは決まっていますが、毎年、現状と課題を生徒自ら考察し、計画・実践しています。思わぬアイデアが出ることも多く教員の方が驚かされます。交流活動でもあいさつから植え付け指導まですべて生徒主体で実施しています。

3 学校及び地域の環境の状況

富岡実業高等学校では平成元年から花いっぱい運動をはじめ、全学科の新入生がプランターを作製し、毎年約200プランターを市内の市役所・生涯学習センター・消防署などの公共機関に配布しています。新入生全員に学校で栽培した入学記念樹（ロウバイ）を配布し、環境に対する意識を高めています。ボランティア・交流活動も盛んに行われ、学校全体で取り組もうという姿勢が強くなっています。

学校は富岡市の中心に位置し、稲含山や鏑川などの自然があり、世界遺産登録を目指す富岡製糸場が近くにあります。しかし、郊外に大型店が進出するなど、徐々に開発が進んでいます。古くからあった商店街では逆に空き店舗や空き地が目立ち、活気がだんだんとなくなってきていて、景観が損なわれてきているようにも感じます。

4 活動内容

1) 地域の景観づくり

富士山はゴミなどの環境が原因で世界遺産登録されませんでした。世界遺産登録には環境・景観、地域住民の協力も大変重要なことを知り、4年前より花と緑を用いて環境づくり・景観づくりに取り組んでいます。

昨年度までに、富岡製糸場に隣接する宮本町商店街の景観作りを考え、空き地に、「富実ガーデン」、「富実フラワーランド」、「富実・角屋」、「赤レンガ休憩場」と名付けた、草花の公園を4カ所完成させました。空き地の有効利用、周辺地域の景観作りに成功することができたと思います。

こうした活動が評価され昨年度からは、富岡製糸場内の花壇作成を任されるという大役をいただきました。責任とやりがいを持ち、充実した活動を行っています。

2) 桑オーナー

生徒のアイデアから、街中の景観づくりのために桑を飾らせていただくことにしました。生糸を生産する蚕の餌となる桑は富岡市で多く栽培されてきましたが、現在ではあまり見られなくなっています。授業内で桑の鉢植えを栽培しました。ただ飾るだけでなく、市民に景観づくり・参加意識を持っていただこうと、市民に桑のオーナーになっていただき、街に飾らせていただきました。地元の広報やイベントなどで呼びかけたところ、地域の多くの人に協力していただき、オーナーになってもらうことができました。駐車場や通路、私たちの公園に設置させていただき、景観づくり・活性化運動へ市民が参加するきっかけ作りになったと思います。



3) 富岡製糸場の花壇植栽・ボランティア

私達が任されている富岡製糸場の花壇植栽を一緒に行うことで、意識の向上が図れるのではないかと、市民のみなさんにボランティアを呼びかけました。市民団体が実施している清掃ボランティアに参加させて頂き、合同で実施。花壇植栽と清掃ボランティアを行いました。活動を定期的で継続したものにするため、月に1回参加しています。

また、活動をさらに広げ、富岡製糸場を未来へ伝えていって欲しいという気持ちから、地域の小・中学生との交流活動も実施、一緒に花壇を作成することでもっと関心を持ってもらいたいと計画しました。市民のみなさんと富岡小学校・西小学校・富岡中学校・東中学校・そして私たち富岡実業高校が一緒に作成する花壇です。富岡製糸場の花であるサルビアを中心に植栽、小学生・中学生とも一生懸命に作業してくれました。私達だけではなく地域の環境に対する意識が向上すれば幸いです。



5 成果と今後の課題

1) 成果

○自ら身近な環境のことを考え、実践することで考える力が身に付き、学習意欲の向上が見られました。

○街中に自分たちの作成した公園があるということは生徒の自信につながっています。さらに、これらの活動が評価され、平成20年度に群馬県で開催される全国都市緑化フェアのサテライト会場に富岡製糸場と私達の街中公園が選ばれました。高校生ガイドにも挑戦して、充実感と責任感を持って活動することができています。

○世界遺産についての文化教育・環境教育を併せて学ぶことができ、学習にも相乗効果が見られ、より地球環境の重要性が認識できたのではないかと思います。

○花のあるところにはゴミを捨てないという気持ちから、活動を進めてきましたが、多くの市民に伝わってきているのではないかと感じられます。

○園芸科学科の活動が学校全体に広がり、各科・学校単位で取り組む活動になってきました。さらに、交流活動で市民や小学生・中学生とふれあうことで、地域ぐるみの活動になり、自分たちだけでなく地域で環境を考え、取り組むことができています。

○この交流活動を通して、直接環境を改善することはまだできないと思いますが、小さな意識の変化・身近なことから環境を意識することを共有することができ、今後の発展が期待できると思います。

2) 課題

○街づくりについて市役所・青年会議所・商店街の方々と定期的に話し合いを持ち、連携のとれた環境美化活動を実施していきたいです。

○毎年実施している市民アンケートを行い、意見を取り入れながら、市民の意識向上・活動への参加を目指したいと思います。

○4年前から続く活動を継続させ、毎年テーマ・目標を持ち活動していきたいです。

○小学生・中学生との交流活動を春と秋に計画的に実施していき、環境について一緒に学習を深められるよう、効果的な実施方法を確立したいです。

○商店街にある富実の公園を有効利用していくために現在、改良を行っています。商店街の方々と話し合い、イベントができるように花壇の位置を移動して新しい花壇を作成しました。今後もより良い公園・利用してもらえる公園を目指したいと思います。また、合同のイベントなどを企画して実施していきたいと計画しています。

○多くの人に世界遺産登録に重要である環境のことを知ってもらえるように、今後も地域での活動を進め、地域全体で環境を考え、一人ひとりが世界遺産登録へ向けた活性化運動ができる街になるように頑張っていきたいと思います。

○富岡製糸場は世界遺産へ向けて活動が進められています。また、平成20年度には全国緑化フェアが行われます。私達の街を素晴らしい街だと思ってもらえるように景観・環境を良くしていき、何より、地域住民があたたかい街になることを目指していきたいです。

II 審査総評の概要

本日は誠にありがとうございます。

皆さんの取組を15名の審査員で審査させていただきました。審査の際の基準は主に4点あります。1点目は、「児童生徒の主体的な活動が見られたか」ということです。2点目は「内容が計画的で発展性があるか」ということです。3点目は、「活動の手順、方法に児童生徒の考えが反映しており、共同で実践しているか」ということです。4点目は、「継続的な努力がなされているか」ということです。

最優秀賞を取った伊勢崎市立境剛志小学校は、実践が各学年に渡っており、児童が主役の取組であることが評価されました。藤岡市立北中学校は、紙リサイクルについての目的が明確で、計画的な取組であることが評価されました。県立富岡実業高等学校は、富岡製糸場を世界遺産にしたいという地域性を生かした発展性が見られる取組であることが評価されました。また特別賞は、独創性や継続性のある学校、前年度の最優秀賞校を受賞の対象としました。

さて、続いて環境問題について述べたいと思います。

昔の環境問題というのは、人々が健康に暮らせるように、身の回りを清潔に保ち、過ごしやすくしておくことが重要でした。人々は、ゴミを消却したり、川をきれいにしたりして、疫病などが流行らないように気を付けていました。

しかし20年くらい前から、環境そのものが変わり、地球環境問題が直接人間に影響を与え、様々な被害が出てくるようになりました。その代表が地球温暖化です。例えば、ゴミを燃やすと、身の回りは確かに清潔になります。しかし、ゴミを燃やすということは地球環境の面から考えると問題があり、他の良い方法を考えなくてはならなくなりました。

今は、「地域」の環境を守ることと、「地球」の環境を守ることを同時に考えなくてはなりません。皆さんが地域で取り組んでいる環境保護等の活動が、地球環境にどのように影響しているかを考えることが必要です。身の回りの山や川の環境を保護していくことも、地球環境を守ることに繋がっています。

単に、身の回りのことではなく、そこから一步出て、広がりや発展性のある活動を計画してください。年々、素晴らしい実践が増えてきていますので、今後の活動に一層期待したいと思っています。

<この概要は、表彰式での群馬大学教育学部西菌准教授（審査委員長）による審査総評を義務教育課でまとめたものです。>

Ⅲ 第15回群馬県環境教育賞受賞校一覧

1 小学校の部

NO	学 校 名	活 動 名	賞
1	伊勢崎市立境剛志小学校	地域の自然から学ぶ環境学習	最優秀賞
2	高崎市立箕郷東小学校	守れ！ぼくらの宝物「学習スペース『大清水川と竹林』の自然」	優秀賞
3	高崎市立北小学校	学校・地域の環境を豊かに！	特別賞
4	前橋市立桃木小学校	桃ノ木川と緑を愛する環境教育	特別賞
5	前橋市立岩神小学校	みんなで楽しく行う環境にやさしい活動	奨励賞
6	渋川市立南雲小学校	地域と連携したヒメギフチョウの保護活動とその教材化	奨励賞
7	藤岡市立美九里西小学校	人と自然を大切にする学校づくり(花いっぱい運動を中心として)	奨励賞
8	沼田市立白沢小学校	花いっぱい運動	奨励賞
9	太田市立中央小学校	花いっぱい運動	奨励賞

2 中学校の部

NO	学 校 名	活 動 名	賞
1	藤岡市立北中学校	北中紙リサイクルプロジェクト	最優秀賞
2	前橋市立箱田中学校	箱田中「3年目のグリーンカーテンづくり」	優秀賞
3	安中市立松井田北中学校	生徒が主体的に取り組む環境に配慮した活動～地域との連携を図りながら～	優秀賞
4	みなかみ町立月夜野中学校	トイレ清掃を通して、学校を磨こう、心を磨こう～生徒会活動の一環として～	特別賞
5	伊勢崎市立第四中学校	学校花いっぱい運動ーサルビアとマリーゴールドの苗植えー	奨励賞
6	館林市立第四中学校	「環境集会」及び「四中ゴミ0(ゼロ)作戦」	奨励賞
7	太田市立旭中学校	旭中学校のISO活動	奨励賞

3 高等学校・特別支援学校の部

NO	学 校 名	活 動 名	賞
1	県立富岡実業高等学校	世界遺産への道 ～地域に広がる活性化～	最優秀賞
2	県立尾瀬高等学校	尾瀬地域の自然環境調査	優秀賞
3	県立利根実業高等学校	地勢に合わせて学校林へ植樹活動	優秀賞
4	県立中之条高等学校	環境保全プロジェクトの発展・広がり①水田再生から予防プロジェクト②私たちのエコプロジェクト6 脱臭化メチルへの挑戦Ⅲ③中之条町における農業用水路の環境調査	特別賞
5	学校法人大出学園若葉養護学校	自然・地域・人とのふれあい	特別賞
6	利根沼田学校組合立利根商業高等学校	クリーンアップ運動	奨励賞
7	県立大泉高等学校	花いっぱい活動から芽生える環境への意識	奨励賞
8	県立新田暁高等学校	「総合的な学習の時間『サーチ』」の学習活動(1)地域清掃ボランティア(2)「環境」分野の学習	奨励賞
9	県立高崎高等養護学校	全校で取り組む環境学習	奨励賞

IV 第15回群馬県環境教育賞募集要項

1 趣 旨

県内の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校を対象として、環境改善や保全についての実践的な活動を募集し、その中から優れた活動を表彰するとともに、その発表の機会を設け、児童生徒が身近な環境に意欲的にかかわり、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度の育成を図り、環境教育の振興に役立つ。

2 主 催

群馬県教育委員会、群馬県市町村教育委員会連絡協議会

3 後 援

群馬銀行環境財団、上毛新聞社、朝日新聞前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞東京本社前橋支局、東京新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬

4 応募資格

県内の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校（学校全体や学級、クラブ活動、児童会・生徒会活動、部活動等）

5 募集内容

環境教育の視点から取り組んだ、次のような内容の活動

- (1) 地域の動物・植物・水質などを調査・保護するための活動等自然保護に関するもの
- (2) 資源の有限性の観点から、電気・水・紙等の節約や古紙・空き缶等のリサイクル活動等の資源の有効活用に関するもの
- (3) 美しい地域環境や学校環境等を整えるための、清掃活動や緑化運動、花いっぱい運動等の美化活動に関するもの
- (4) 総合的な学習の時間で取り組んだ環境教育に関するもの

6 応募方法

- (1) 提出締切 平成19年8月24日（金）

(2) 提出物

- ① 群馬県環境教育賞応募用紙（別紙）
 - ・市町村立の小学校、中学校、特別支援学校及び市立高等学校 ----- 3部
 - ・市町村立以外の学校 ----- 1部
- ② 参考資料（活動の様子の写真、活動記録等 ----- 1部

(3) 提出先

- ① 市町村立の学校長は、当該市町村教育委員会教育長あて提出すること。
- ② 市町村立以外の学校長は、群馬県教育委員会義務教育課長あて提出すること。
- ③ 各市町村教育委員会教育長は、平成19年8月31日（金）までに、環境教育賞応募校一覧表（別紙様式）にまとめ、提出された環境教育賞応募用紙（別紙）のうち2部、及び添付参考資料等1部を当該教育事務所長あて提出すること。
- ④ 各教育事務所長は、平成19年9月7日（金）までに、管内の環境教育賞応募校一覧表（別紙様式）にまとめ、提出された環境教育賞応募用紙（別紙）のうち1部、及び添付参考資料等1部を、群馬県教育委員会義務教育課長あて提出すること。

7 表 彰

最優秀賞、優秀賞、奨励賞、特別賞を設け、各受賞校には、表彰状と記念品を贈呈する。

8 審 査

- (1) 群馬県教育委員会教育長が委嘱した審査員により、提出された応募用紙及び参考資料をもとに、下記の審査基準により審査を行う。

〔審査基準〕

- ・児童生徒の主体的な活動が見られるもの。
- ・内容が計画的で地域への広がりや発展性があるもの。
- ・活動の手順・方法に児童生徒の考えが反映しており、協同で実践しているもの。
- ・継続的な努力がなされているもの。
- ・その他

- (2) 審査の結果は、平成19年10月中旬に、当該校に文書で通知する。

9 表彰式及び実践発表大会

- (1) 表彰式及び実践発表大会を平成19年11月21日（水）に実施する。
- (2) 表彰式及び実践発表大会の参加については、別途通知する。